
半悪魔

大賀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

半悪魔

【Nコード】

N7343A

【作者名】

大賀

【あらすじ】

半分人間で半分悪魔。どちらにもいけない。そんななか、1人の人間の命を救うために――

プロローグ（前書き）

ブローグ

鼻に入ってくる草の匂い。オレにとっては新鮮なものだった。

昨日、ここ、父さんのふるさとに帰ってきた。オレが生まれてから一度も踏み込んだことのなかった土地……ここがそうなのか…

家やビル、マンションがぐちゃぐちゃにつめこまれた都会と違って、ここは田んぼとしか見えない。家なんか、点々として立っているぐらいだ。ここの人たちにとっては、これが普通なんだろうな。

オレは、ずうつと青い空を見て、草の匂いをかいでいたかった。いろんなことを忘れて、ずうつと……

半分人間 半分悪魔

昨日、父さんのふるさとなる所に帰ってきたオレ 竜。^{りゅう}

家もまるつきり違うし、学校だって絶対全然違うんだろつ。

そんな変化にたえられないと思いはじめたオレは、初登校をやめ、今こうして草原でのんびりしている。

だって、そのほうが楽だし。父さんには悪いがな。

「あれえ、お前って、今日来るって噂の子か？」

オレの寝転んでいたところから見えた空が隠されて、一つの顔が見えた。

「……誰？」

「ん…オレ？オレはりきっていう名前だぜ。力^{ちから}って書いてりきって読むんだ」

「あつそ…ようないんだったらオレの前から消えてくんない？」

「うわつ。その態度、ひどすぎ！同じ悪魔なんだから、もうちょい仲良くしてくれたっていいじゃん」

「断る」

オレは草原から起き上がった。全く、オレになんかようがあつて話かけてきてるんだったらまだ我慢できるのにな。ただ話かけられるのはうざったいだけだ。

ん？……悪魔がなんの意味かわからないって？そりゃあそうだろうな。まだなんの説明もしてないし…。

オレの説明だと分からないかもしれないが頑張って理解してくれ。

いいかい、諸君。基本的にこの世界は悪魔と人間に分けられている。人間と悪魔の違いは一つしかない。悪魔には額に小さなどくろのマークがあるのだ。それで悪魔か人間かが区別されている。

約900年前ぐらいに、この世界に二つの種族が一緒に住むこととなった。

だが、やはり悪魔が人間かで分けられてしまう。それが幼稚園や保育園からだ。大人たちから言われるからか、遊ぶ友達も種族で分けられてしまう。まっ、これが当然の流れなんだろう。

以上、オレの説明は終わりだ。

オレはどっちか？どっちなんてはつきり言えねーな。オレは半分人間で半分悪魔だから。さっきの力ってやつが悪魔って言ったのは、額に薄いどくろがあったから

半分人間 半分悪魔（後書き）

まだまだ未熟すぎて、内容がややふやですみません。

よくわからなくてなんだこれ？と思った方もたくさんいると思います。

直したほうがいいとか、そういうのがあったらじゃんじゃんアドバイスください。

初登校の日

人間と悪魔が住むこの世界。ある所で、人間の女と悪魔の男が愛し合った。

周りの反対を無視し、いろいろと言われながらも2人は結婚した。そして一人の子供が生まれた。それがオレだ。

昔から、2つの血が混ざっているからといって仲間はずれにされてきた。大きくなった今だってそうだ。この前の学校でやつとなれてきたっていうのにな…引越してオレの努力が水の泡だぜ。

オレは、どちらにも入れない、はんばものなんだ。だから、友達なんて作ろうとも思わない。

たぶん、これがオレの運命ってやつなんだろうな。きたものは受け取らなくちゃ…。

昨日学校にいなかったから、今日がオレの新しい学校への初登校日となった。

よそから来たオレがそんなに珍しいのか、登校している他のやつらがジロジロ見てくる。

特に視線が集まっていたのが額だ。オレが悪魔か人間か確かめようとして。

この学校でオレが半分づつの血だということがバレるのにそう時間はかからないだろうな…たくつ、あゝあ、前の学校に帰りてえ…

「転校生の、竜君だ。竜君、自己紹介してくれ」

つと、髪の手短な先生が、どの学校でも言うようなセリフをオレや目の前の生徒たちに言う。

先生の希望通り、オレは一步前にでて自己紹介してやった。

「…竜っていいです。よろしくお願いします…」

オレの頭の中は空っぽだったため、これ以上言うことが思いつかなかったのだ。

先生が席を言う。オレがそこにいき、隣の席の女の子が話しかけてくる。というおなじみのパターンで進んでいった。

「竜君でいい？あたしは由美だよ。よろしくう」

妙なくらい元気だ。ここはみんなそうなのか？昨日話しかけてきた“力”って奴もそうだったし…だとしたらオレはこのテンションについていけないだろう。まあ、もともと友達なんてものを持ったことがないオレは知ったこっちゃないが。

そう言えば…力って奴もこの学校のはずだ。制服がそうだったし…

…「あゝ！！やっぱりおまえが噂の転校生だったんじゃない」

ナイスタイミングで力ってやつが話しかけてくる。力は由美の前の席だった。

「えっ？力と竜君って知り合いなの？」

「いや、こんな奴知らない」

オレはそう言つて2人を無視した。こんなやつらと話しをしているなんてめんどくさいだけだ。どうせこっちが半悪魔だって分かったら、話しかけてこなくなるくせに…

その後、しつこく力が話しかけてきたが、無視し続けたらおとなしくなった。そうして学校が終わる……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7343a/>

半悪魔

2010年10月17日03時50分発行